



市農業士会 会長 堀川幸俊さん

父の言葉が
今でも心に残っています。

堀川さんがみかんづくりを始められたきっかけなどを教えてください。

私の家は代々みかん農家を営んでおり、初めから家を継ぐつもりでした。農業を継ぐつもりでいたからなので、もう40年ほどみかんづくりをしていますね。

長く農家を続けてこられて、印象に残っていることを教えてください。

みかんは芽吹いて実るまで2年ちかく時間がかかります。家を継いでいく頃、父から言われた言葉があります。『野菜とみかんは馬と牛や。野菜づくりは植えてから収穫まで比較的短いサイクルでまわって、スピードがはやいから馬。みかんづくりは長い目で見やんとあかん。じっくり力強くという意味で牛なんや』この

先日、NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」のロケ撮影が市内のみかん園で行われました。みかん園での撮影に協力された堀川さんに、みかん農家のことや有田みかんの今後のことについてお話を伺いました。

市民アイ

みかん農家 (市農業士会会長)

堀川 幸俊さん

今では、色々技術が進歩しましたが、収穫作業は今も昔も変わらず、人の手できないと感じました。

堀川さんは現在、農業士会の会長をされていますが、これからのみかん農家の課題は何だと思いますか？

言葉は不思議と今でも心に残っています。

堀川さんのみかん園は昔ながらの自然が残っています。先日はNHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」のロケ地にも使用されましたね。

そうなんです。海を見下ろせる南向きのあたたい園地なんです。ロケの撮影が来ると知ったときはとても驚いて、まさに「びっくりほん！」でした。自分の園地が撮影に使われ、光栄です。

堀川さん自身も明治時代の農家をエキストラとして演じられました。何か感じられたことはありますか？

今では、色々技術が進歩しましたが、収穫作業は今も昔も変わらず、人の手できないと感じました。

堀川さんは現在、農業士会の会長をされていますが、これからのみかん農家の課題は何だと思いますか？



明治時代の農家を演じる堀川さん

後継者の問題ですね。農家が高齢化していて、農地を手放す人も増えています。もっと農家の魅力を広めていかないとダメですね。

堀川さんの農園を継ぐ人はいますか？

息子が後を継ぐ意志を持って来ています。農家はいわば技術職。本を読んでもできるものではないし、年々で習得できるものでもありません。私が元気なうちに、学んでほしいと思っています。

今後の夢はありますか？

今、農業関係の団体が集まって全体の技術をレベルアップしようという活動をしています。生産力を高め、品質を向上させ、有田みかんのブランド力をさらに高めていきたいと思っています。

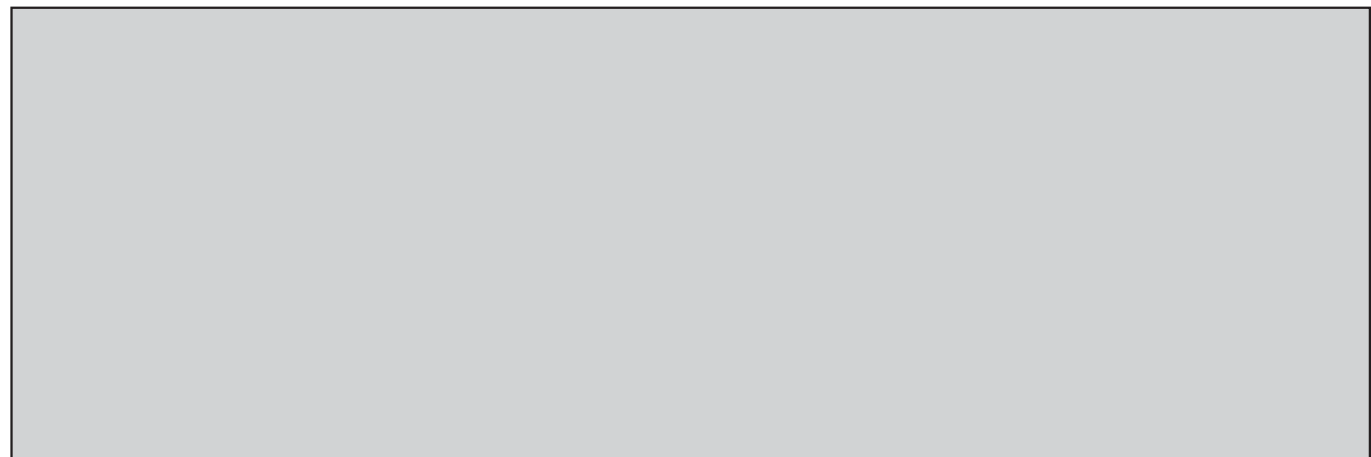
何事も足飛びにはいきませんが、牛のようにはいきなり力強く取り組んでいきたいと思えます。



朝の連続テレビ小説「あさが来た」(毎週月～土朝8時)

NHK総合(有田市でロケ撮影されたシーンは、2月8日(月)「ドラマ第19週」放送予定です。)

広告



このコーナーは、地域の課題解決について研究している龍谷大学政策学部の学生の皆さんが取材しました。有田市でのフィールドワークなどでの活動を通じて感じた「縁側」の魅力を多くの人に伝えるため、学生自ら取材を行い、記事を書いています。

今回は、箕島公民館で活動する日本画サークルのみなさんにお話を伺いました。※ここでの「縁側」とは、「ホッとできる自分の居場所」という意味です。



日本画サークルのみなさん

上段左から 伊藤宏美さん・中島照代さん・御前万知子さん・前田靖子さん

下段左から 田中重造さん(先生)・玉置恵子さん・田中伊沙子さん

このまちで、これまで、これから

私たちは箕島公民館でサークル活動が行われているという情報を得て、ワクワクした足取りで向かった。

中に入ると、日本画サークルのみなさんが温かく出迎えてくれ、今回は7名の方にインタビューをさせていただきました。

この日本画サークルは、今から17年前の高校の同窓会をきっかけに同級生で結成されたそうで、活動される中で同級生以外の方も参加されるようになったという。全員の仲が良く、楽しみながらここで日本画を描いているということが伝わってきた。

こうして話を聞いていくうちに私たちは、みなさんにとって「日本画サークル」の活動を行



サークル活動の場所 箕島公民館

わらずにここにあり続けてほしいと感じた。

お互いの協力で成り立っているこのサークルも今年で18年目を迎える。まちの風景は変わっていても、人のつながりは変わらない。馴染みの人と一緒にいる場所こそが、日本画サークルの方々にとっては、まちの縁側であり、その縁側がこれからも変わらぬようにしていきたい。

お互いの協力で成り立っているこのサークルも今年で18年目を迎える。まちの風景は変わっていても、人のつながりは変わらない。馴染みの人と一緒にいる場所こそが、日本画サークルの方々にとっては、まちの縁側であり、その縁側がこれからも変わらぬようにしていきたい。

う箕島公民館が、まちの縁側々々となつていないかと思つた。集まるたびに世間話をしながら日本画を描き、気を遣い合うことなく過ごす時間。日常の一部ではあるが、生活にメリハリを与えてくれる大切なひと時である。

実はサークルの先生である田中さんも同級生で、先生が日本画を教えてくださいました。

あたたかい雰囲気での取材



左から 北畑大我、小野賢也、日比野雅也

取材後、市役所の方にみかん海道へ連れて行ってもらったのですが、そこには最高の景色があり、道中の車からは素晴らしい自然を見ることができました。この日だけで有田市の魅力をいくつも見つけることができました。また訪れたいです。

取材を終えて・・・

公民館を訪れることは、急に決まったことだったので緊張していましたが、でも、中に入るとその緊張を飛ばしてしまふほどにみなさんが温かく出迎えてくださりました。取材中は笑顔の絶えない場となっていました。有田市民の方々の温かさを感じられる日になりました。日本画サークルのみなさんありがとうございました。

広告

